

今年の冬の寒波は早くから来て頂き、厳しいものでした。2月には暖かい日がちょこっとあり、だいぶ楽をさせて頂きました。三月の声を聞くとこれから暖かくなると感じてしまいます。されど、奈良の東大寺二月堂のお水取りが済むまでは春はやってこない。寒さ対策を怠りなくして、年度末の駆け込み需要に精を出して頑張ってください。

さて、昨年末に27年度の税制改正大綱が出て、基本方針は法人税を減税して、小金持ちからお金を集めよう、こんな感じが根底にあります。安倍首相の独壇場で、消費増税先送り「アベノミクス」を争点に衆院選で国民に信を問い、勝利した結果、自民税調は法人減税の下げ幅拡大や減税先行を与儀なくされた。「首相1強」の下で来年も首相官邸の意向に沿った税制論議になる見通しが強まっている。自民税調など財政規律派の復権は不透明だ。財務省によると、外形標準課税が適用される資本金1億円超の中堅。大企業は約2万3千社ある。そのうち約6400社が赤字で合計1020億円の増税となる。中小企業も収益の高い企業ほど税率引き下げの恩恵がある。課税所得のうち800万円を超える部分の税率は25.5%（国税分）から23.9%に下がる。中小企業のうち18万社は所得が800万円を超えており、成長著しいベンチャー企業などにもメリットがある。赤字の中小企業は税負担が変わらない。閣議了承も済んで、あとは27年度予算の成立を待つばかりです。3分の2の強力与党なので、すんなり通過すると思われていましたが、閣僚の政治資金の問題での枝葉末節の上げ足取りで紛糾して、年度内予算成立は難しいように思えます。政高党低が続いており、安倍首相に文句を言える人がいない。近頃テレビ中継を見ていると、安倍首相のおごり、決めつける横柄な態度が目に残ります。マスコミも此のところは、政府の批判記事が載らない。提灯記事が目立ちます。政治は悪党でないと務まらないのはよく分かっておりますが、自省がなく傲慢になることが滅びの道に繋がると言います。名宰相になれる安倍首相には何が起こるか分かりません。安倍首相のアベノミクスの真価が問われている今国会には消費税増税の影響が出ているのでしょうか？

三寒四温を肌で感じる季節となりました。男山の石清水八幡宮にも、3月3日上巳の節句を前に、梅の花が咲き始めました。古来、梅花は桜花とともに多くの和歌でも詠まれ、愛でられてきましたが、朝夕の光に照らされながら咲き誇る紅白の花は、「春はすぐそこまでやって来ている」と伝えていきます。もうすぐ春です、精進いたしましょう。